



みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～



第8弾 真室川スタディツアー 学びのしおり

森林トロッコの隧道跡を眺望できます

堤体上部でコーヒータム☕

大人の社会科見学 第8弾 真室川
小学生からOK!

スタディツアー
いま、真室川が
おもしろい!
「錦秋の高坂ダム 編」
令和4年10月22日(土)
7:30～

紅葉の高坂ダム

大沢川発電所の中を見学できます

発電機

水車

高坂の大カツラ

真室川町を学ぶ一日。学びたい大人のための「社会科見学」で、真室川町がもっと好きになる！

【ツアー行程】マイクロバスで移動します

受付(7:15～7:30) ⇒ 開講式・オリエンテーション ⇒ 高坂の大カツラ ⇒ 森林トロッコ列車隧道跡眺望 ⇒ 大沢川発電所 ⇒ 高坂ダムビューポイント ⇒ 高坂ダム堤体最上部(コーヒータム☕)・管理所 ⇒ 閉講式(12:00頃終了予定)

真室川町教育委員会 真室川町中央公民館

第8回真室川スタディツアー「いま、真室川が面白い！」

錦秋の高坂ダム 編

開 講 式 次 第

会 場：真室川町役場正面玄関前

時 間：7:30～7:45

1. 開 会
2. 主催者あいさつ
3. オリエンテーション
 - (1) 事業の概要・タイムテーブル
 - (2) 事務連絡(体調管理等の諸注意を含む)
4. 閉 会

閉 講 式 次 第

会 場：高坂ダム堤体上部

時 間：10:35～10:55

1. 開 会
2. 修了証交付
3. 主催者あいさつ
4. 記念撮影
5. 閉 会



みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～



【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないのでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【見学地の位置】



高坂ダムの見学案内と周辺情報(発行：山形県最上総合支庁建設部 高坂ダム管理課)より

- ◆所在地：真室川町大字差首鍋地内
- ◆最寄り駅：真室川駅
真室川駅→高坂行きバスにて約 25 分→徒歩にて約 40 分
- ◆新庄方面から(車)
JR 新庄駅から真室川方面へ約 50 分

【真室川町の概要】

(令和4年9月末現在)

○人口: **6,947** 人 ○世帯数: **2,603** 世帯

町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の鳥 「ウグイス」



◎町の音頭 「真室川音頭」



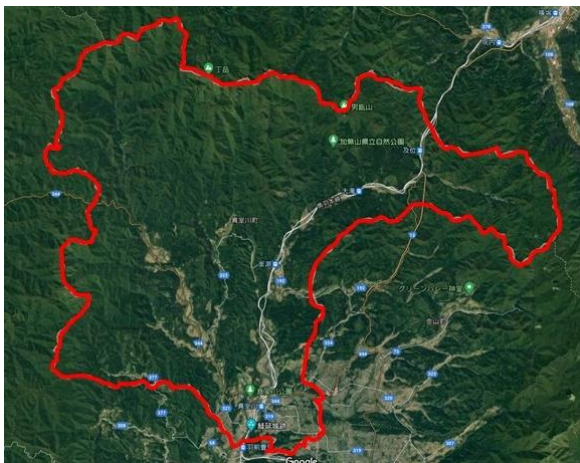
◎町の花 「梅」



◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km ²)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

【高坂ダム・大沢川発電所】

河川総合開発事業により、洪水調節と発電を目的とする多目的ダムとして、昭和38年4月に着手し、総事業費約16億円を投じ、昭和41年12月にダム本体と大沢川発電所工事が完了、昭和42年1月より発電を開始し、現在に至る。

ダム周辺は東北森林管理局でレクリエーションの森に、また、奥地は大沢川源流部県自然環境保全

地域及び山形県鳥獣保護区の指定を受けており、緑豊かで自然景観に恵まれている。

一級河川鮭川は、流路延長48km・流域面積870km²で、本地域は豪雨・豪雪地帯のため年間雨量が3,000mmと非常に多いため、高坂ダムにおいて洪水を調整し水害を未然に防ぐとともに、この豊富な水を発電に利用し年間18,000KWHの送電を行うなど、多目的の効果を十分発揮し、地域の発展に寄与している。

【高坂ダムパンフレット(山形県最上総合支庁建設部高坂ダム管理課)より】



貯水池全景



早春のダム放流



紅葉の高坂ダム



大沢川発電所



発電機



水車

【森林鉄道とトロッコ列車】

明治時代の後半、富国強兵と殖産興業に邁進していた時代において、急速に国産木材の需要が高まったが、当時の丸太の水上輸送は、「管流し(伐採現場から人や家畜の力により河川のそばまで運び、上流域で河川をせき止め、そこに丸太を浮かべ、堰を切ることにより鉄砲水とともに一挙に下流に押し流す方法)によっており、このような集積方法は**危険度が高く、多くの人命が失われたほか、丸太の損傷や消耗率も高く、流水量の季節変化により流送量も大きく左右されていた。**



そこで、**木材の計画的かつ安定的な輸送のため、「動力車がけん引する本格的な森林鉄道」として、明治41年に青森県で津軽森林鉄道が本格的に運用された。**戦時下に主運行した路線は軍需用材として広葉樹開発を担ったものが多く、ブナ材の増伐につながり、**大部分が山林である本町においても、同様の理由から森林鉄道が整備されたものと思われる。**

本町での森林鉄道は、昭和13年から昭和37年まで、釜淵を起点に小又、高坂を経由し、高坂ダムの上流にあった大川入りまでの28kmの

区間を運材用トロッコ6両、客車1両をけん引しながら、1日1往復し、ブナや杉の運搬を行った。(昭和39年林道廃線)

昭和57年、当時の松澤直太郎町長が、古くから林業が盛んであった本町の地域資源として、仁別森林博物館(林野庁秋田営林局)に静態保存されていた**ディーゼル機関車を購入し、修復したうえで町歴史民俗資料館敷地内に設置した。**

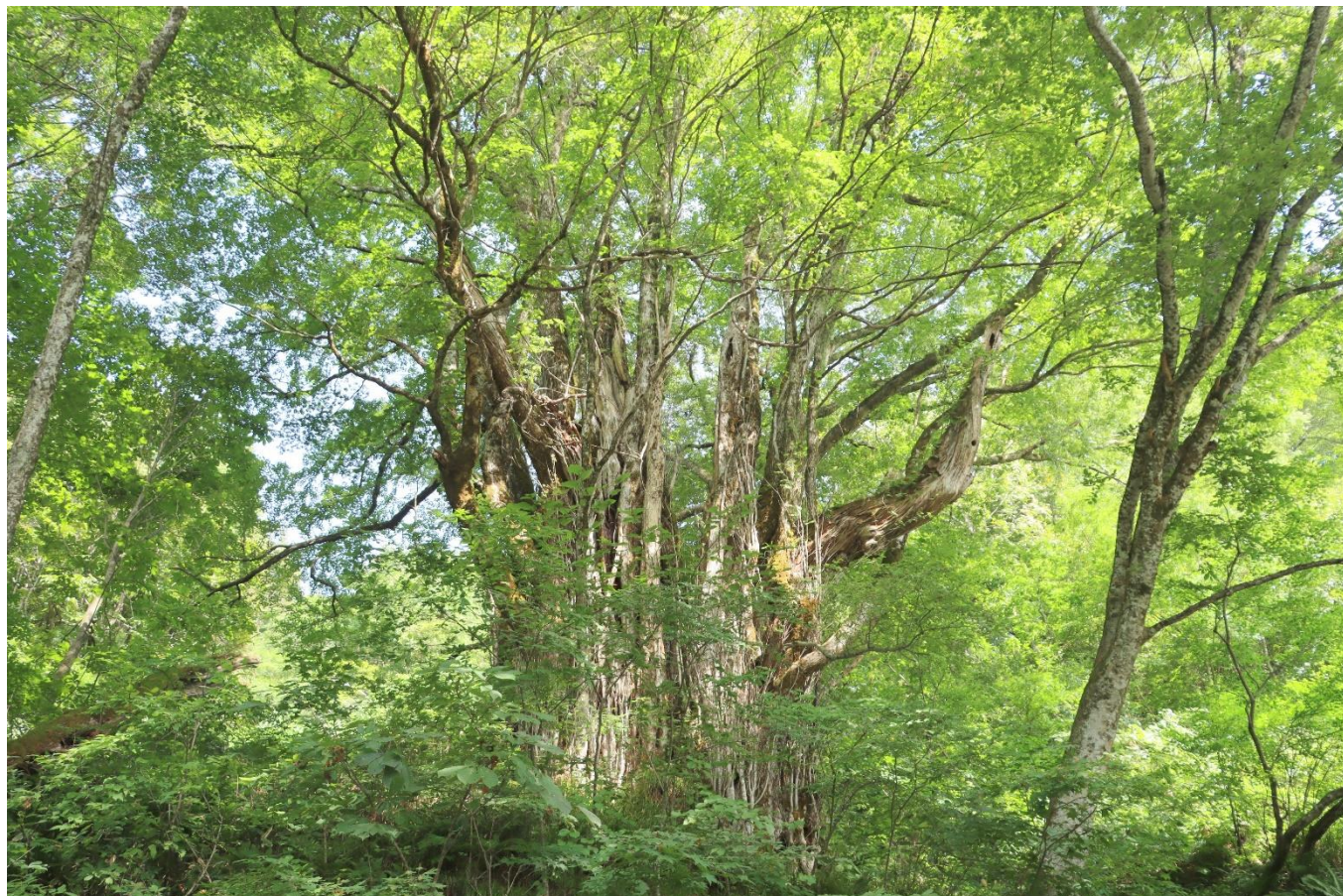
平成15年には、機関車の痛みが激しくなってきたことに加え、まむろ川温泉梅里苑の森林空間施設への集客効果を考慮し、町は森林鉄道整備事業を実施した。

この事業では、総事業費5,251万円を投じ、線路敷設1,043m、駐車場の設置、機関車のオーバーホール、客車の新設などを行い、平成16年5月から**梅里苑に隣接する体験交流の森で現在も運行されている。**

また、平成21年2月には、山間地の産業振興と生活を支えた森林鉄道の歩みを物語る貴重な資料として、**経済産業省の「近代化産業遺跡群」に認定された。**



① 高坂の大カツラ



【メモ】

高坂の大カツラは、国道 344 号から林道に入って 200m、西側山中の高みに仰ぐことができる。このカツラに登るには、直下から直登しても良いが、道路を 50m 登って山中を斜めに登っていくと、無理なく到達できる。

高坂ダム管理事務所長の依頼により計測が行われた結果、幹回りの太さが 16.3m で当時全国 3 位、現在は全国 6 位にあたる。(樹高：30m、樹齢：1,000 年以上、種類：カツラ)

【最上地域観光協議会ウェブサイト「巨木の森探訪」より】

② 森林鉄道隧道跡



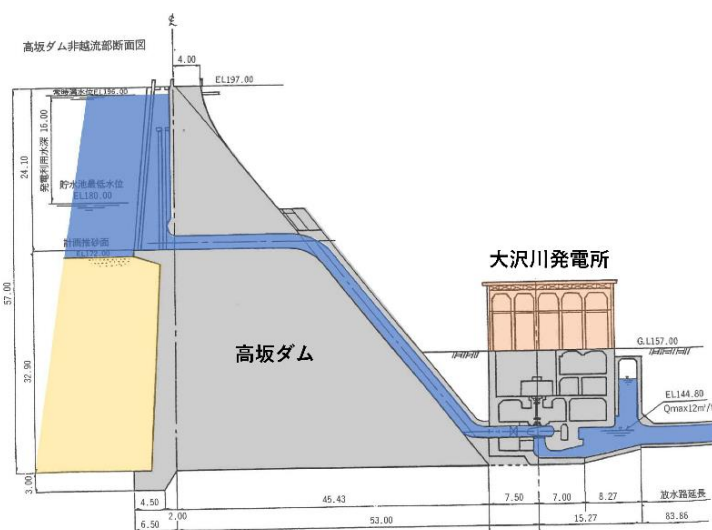
【メモ】

町内にも多くの軌道・隧道跡が残されていたが、時代とともに老朽化し、危険となったため取り壊しや立入禁止となっているところも多く、現在では一部のものしか見ることができない。

③ 大沢川発電所

大沢川発電所諸元

出力	最	大	5,000KW
	常	時	1,000KW
使用水量	常	時	12.00m ³ /sec
	常	時	4.08m ³ /sec
有効落差	常	時	50.10m
	常	時	43.70m
	常	時	34.40m
年間可能発電電力量			22,429,000KWH



大沢川発電所

最上川水系 鮭川



くらしを支え、みらいを創る
山形県企業局
自然の恵みを水と電気にて。

電気事業課

〒990-8570
山形市松波二丁目8番1号
TEL 023-630-2785
FAX 023-630-2741

最上電気水道事務所

〒999-5405
余山町大字上台字荒原山1241番3号
TEL 0233-52-3809
FAX 0233-52-2392

設備写真

取水口



大沢川発電所



変圧器



配電盤



発電機（ローター）



フランシス水車



※大沢川発電所パンフレット(山形県企業局)・
高坂ダムパンフレット(高坂ダム管理課)より

【メモ】

大沢川発電所は、県の高坂ダムの水を使用する企業局初のダム式発電所で、昭和39年2月に着工。豪雪大出水及び労働者不足等のため建設が難航したが、昭和42年1月に発電を開始した。

発電所の定期的な保守管理については最上電気水道事務所が行い、運転停止操作や監視業務については鶴岡電気水道事務所から遠隔集中制御を行っている。

水車発電機1台で最大落差50.1m、最大12.0 m³/sの水で最大5,000kWの発電を行っている。

【大沢川発電所パンフレット(山形県企業局)・最上電気水道事務所パンフレット(山形県企業局)より】

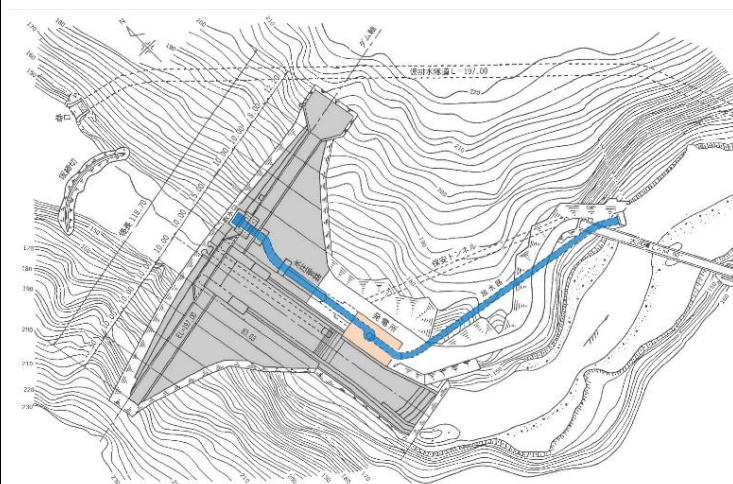
④ 高坂ダム

ダム及び貯水池諸元

河川名	最上川水系鮭川	貯水池	
集水面積	68.2km ²	湛水面積	1.1km ²
位置	山形県最上郡真室川町大字 差首鍋字青沢境山外20国有林	湛水延長	5.1km
交通	JR奥羽本線真室川駅 より20km、国道344号線	洪水時満水位標高	196.50m
ダム	重力式コンクリート	常時満水位標高	196.00m
		制限水位標高	第1次 6/21~8/20 185.00m 第2次 8/21~9/30 187.00m
型式	重力式コンクリート	予備放流水位標高	185.00m
堤高	57.00m	最低水位標高	180.00m
堤頂長	118.70m	洪水調節水深	11.50m
堤頂幅	4.00m	発電利用水深	洪水期 5.00m 非洪水期 7.00m 16.00m
堤体積	68,700m ³	総貯水容量	19,050,000m ³
基礎岩盤標高	140.00m	有効貯水容量	12,750,000m ³
天端標高	197.00m	洪水調節容量	10,050,000m ³
クレスト数高標高	181.50m	発電容量	洪水期 2,700,000m ³ 4,070,000m ³ 非洪水期 12,200,000m ³
上流面勾配	1:0.05	堆砂容量	2,840,000m ³
下流面勾配	越流部 1:0.80 非越流部 1:0.79	死水容量	3,460,000m ³
地質	角閃石流紋岩		



概要図



高坂ダム及び大沢川発電所



※大沢川発電所パンフレット(山形県企業局)・
高坂ダンプンフレット(高坂ダム管理課)より

【メモ】

河川総合開発事業により、洪水調節と発電を目的とする多目的ダムとして、昭和38年4月に着手し、総事業費約16億円を投じ、昭和41年12月にダム本体と大沢川発電所工事が完了、昭和42年1月より発電を開始し、現在に至る。

高坂ダム計画洪水波は、昭和36年6月25日洪水波を基本として決定され、ダム地点の計画高水流量610 m³/secを200 m³/secに減少させる。

流入量が200 m³/secに達したときより洪水調節を開始し、最大200 m³/secの放流を行い、流入量との差を貯留する一定放流の洪水調節方式である。

この洪水調節により、鮭川真木地点の流量を3,600 m³/secから3,300 m³/secに低減させる。

【高坂ダンプンフレット(高坂ダム管理課)より】

【タイムテーブル】

時 刻	内 容	摘 要	所 要 時 間
7 : 15	受付開始		15 分
7 : 30	開講式	役場庁舎正面玄関前	15 分
7 : 45	バス移動 (中央公民館⇒高坂の大カツラ)	車内オリエンテーション(昔話) 説明者：教育課社会教育指導員	30 分
8 : 15	高坂の大カツラ見学	説明者：教育課職員	10 分
8 : 25	バス移動 (大カツラ⇒明神橋)	明神橋入口でヘルメットを借用	5 分
8 : 30	森林鉄道隧道跡眺望	説明者：教育課職員	10 分
8 : 40	大沢川発電所見学	説明者：山形県企業局 最上電気水道管理事務所職員	30 分
9 : 10	バス移動 (明神橋⇒ダム堤体上部手前)	国道 344 号で折返し	15 分
9 : 25	徒歩移動 (ダム堤体上部手前⇒ビューポイント)		10 分
9 : 35	ビューポイント見学		10 分
9 : 45	徒歩移動 (ビューポイント⇒ダム堤体上部)		10 分
9 : 55	ダム堤体上部・管理所見学・休憩	説明者：高坂ダム管理課職員 全体で堤体の説明後、 2 班に分かれて管理所を見学	40 分
10 : 35	閉講式・記念撮影	ダム堤体上部にて	20 分
10 : 55	徒歩移動 (ダム堤体上部⇒ダム堤体上部手前)		20 分
11 : 15	バス移動 (ダム堤体上部手前⇒中央公民館)	町収穫祭会場で下車	40 分
11 : 55	解散	中央公民館到着後、適宜解散	30 分